

廃棄物・水資源利用量の削減

廃棄物から有価物へ、再資源化・再利用へ転換することに取り組んでいます。
保守部品への転用率を高めサプライチェーンにおける資源化を追求しています。

廃棄物の削減方針

循環型社会を形成していくために3R(リデュース、リユース、リサイクル)を促進し、廃棄物などの排出量及び最終埋立処分量の削減に努めます。

- 事業活動においては、廃棄物排出量の削減と最終埋立処分量ゼロおよび有価物化を促進します。
- 製品においては、省資源化設計によるリデュース、リサイクルおよびリユースを促進し、資源の再利用に努めます。

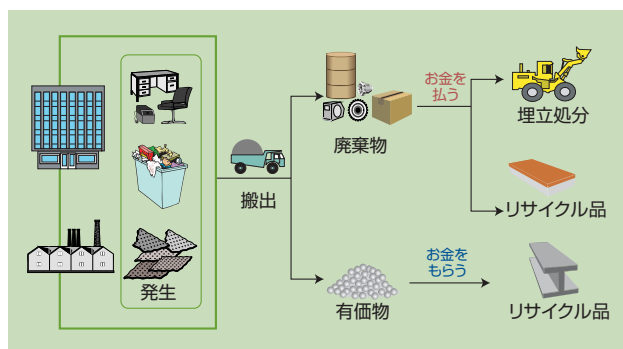
事業活動での廃棄物削減の取り組み

カシオの2006年度廃棄物等排出量8,417トンのうち、デバイス事業は4,728トン、エレクトロニクス機器事業は3,689トンです。デバイス事業における廃棄物等排出量の削減への施策は、

1. 製造プロセス条件の改善
2. 設備稼働率や歩留まりの改善によって生産効率を向上
3. 減溶化処理により、廃棄物の容積を減らす
4. 分別の徹底により、廃棄物を有価物化する

を実施しています。

カシオマイクロニクス(山梨)では、2005年度から脱水減溶化設備を導入し、廃アルカリ液の減溶化を実施しています。また、高知カシオでは、剥離廃液の分別回収を行うことなどで2006年度には355トンの有価物化を行いました。



- ・廃棄物等排出量・最終埋立処分量及び実質生産高原単位の推移(国内全拠点)
- ・廃棄物等排出量・最終埋立処分量及び生産高原単位の推移(海外生産拠点)

製品における廃棄物削減への取り組み

【法人向け使用済みパソコン、情報機器製品および使用済みドラム・トナーセットの回収について】

お客様がご使用になった後の製品を回収することにより、廃棄物削減に取り組んでいます。

【コンシューマ製品の回収について】

カシオビジネスサービスは、国内営業からさまざまな理由のために返ってきたコンシューマ製品を保守部品へ転用するリユース事業を拡大しています。従来までは、このような製品は廃棄物として処分されていましたが、2004年度から保守部品への転用を進めてきた結果、2006年度の金額転用率^{※1}は44.5%、部品転売率^{※2}は90%になりました。

※1 金額転用率：戻ってきた製品を転用可能な保守部品と転用不可能な不修部品に分けて、その金額の比率を表した指標

$$\text{金額転用率}(\%) = \frac{\text{保守部品転用金額}}{\text{不修廃棄金額}} \times 100$$

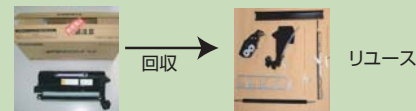
※2 部品転売率：戻ってきた製品のうち転用可能な部品の点数を比率で表した指標

$$\text{部品転用率}(\%) = \frac{\text{部品の転売できる部品点数}}{\text{前月に発生した回収品台数}} \times 100$$

- 法人向け使用済みパソコン、情報機器製品の回収リサイクルについて



- 使用済みドラム・トナーセットの回収について



- コンシューマ製品の回収について



回収・リサイクル

<http://www.casio.co.jp/csr/env/recycle/>

水資源利用量の削減

2006年度のカシオにおける水資源利用量は3,342千m³で、そのうちデバイス5拠点(高知カシオ、甲府カシオ(本社)、カシオマイクロニクス(第一・第二工場、山梨))とエレクトロニクス2拠点(カシオ電子科技中山、香港カシオ番禺工場)が約83%、2,765千m³を利用しています。これらの拠点では循環水を利用することによる水資源利用量の削減に努めており、2006年度の循環水利用量は262.9千m³で、水利用量の9.5%に相当します。



- ・水資源・循環水利用量及び実質生産高原単位の推移(国内生産拠点)
- ・水資源・循環水利用量及び生産高原単位の推移(海外生産拠点)
- ・紙使用量の推移